

## ●谷内口 友寛（やちぐち ともひろ）

京都市環境保全活動推進協会  
事務局次長（地域環境活動促進室長事務取扱）



### ●対応できるテーマ例

環境教育、ESD、SDGs、環境学習施設運営、地域コミュニティでの環境活動促進、中間支援、環境学習プログラム開発、参加体験型の学びの場づくり、ボランティアコーディネート

大阪市出身。2001年、キャンプカウンセラーとして環境教育に出会い、マザーアース・エデュケーションのスタッフとして、学校現場での人間関係トレーニングや、自然の中でのワークショップ等で、アメリカ先住民の自然観をベースとした環境教育を実践する。

2006年、京都市環境保全活動推進協会に奉職し、京エコロジーセンターにおける環境学習・ボランティアコーディネート・イベント企画などに従事。2013年より京都市と協働で、京都市内222の地域コミュニティにおけるエコ活動を支援する「エコ学区事業」や、京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」の立ち上げ・運営に従事する。

人と自然とのつながりに気づき、大事にするための「学びの場」をつくること、様々な主体と共に問題解決することをモットーとしている。

ボランティアコーディネート力検定2級。著書等に『よくわかる環境教育』（2013、水山光春編著、ミネルヴァ書房発行、分担執筆）。

## ●井上 和彦（いのうえ かずひこ）

京都市環境保全活動推進協会 企画広報室長



### ●対応できるテーマ例

SDGs、ローカルアジェンダ21、市民・事業者・行政のパートナーシップ

京都市生まれ。民間企業で環境調査、環境計画策定等の業務に従事しながら、1999年頃からNPO法人環境市民の活動に参加。2001年に退社し、NPO法人環境市民の受託業務に従事。2004年にNPO法人与よなか市民環境会議アジェンダ21の事務局長に就任し、環境省の「国連ESDの10年促進事業」のモデル事業などに従事。2010年に京都市におけるローカルアジェンダ21の推進組織である京（みやこ）のアジェンダ21フォーラムの事務局長に就任。2019年4月に京のアジェンダ21フォーラムが公益財団法人京都市環境保全活動推進協会と組織統合したため現職に就く。

東京農業大学農学部林学科卒。関西学院大学、龍谷大学非常勤講師など。

著書等に『地球温暖化対策の最前線—市民・ビジネス・行政のパートナーシップ』（2007年、法律文化社、分担執筆）。

## ●新堀 春輔（しんぼり しゅんすけ）

京都市環境保全活動推進協会 環境教育推進室長



### ●対応できるテーマ例

環境教育／ESD、環境教育／ESD プログラム企画、ボランティアコーディネーション（ボランティアマネジメント／施設ボランティアマネジメント）等

福岡生まれの京都市育ち。高校時代に南アフリカ共和国に留学し、アパルトヘイトの名残や HIV の問題、スラムなど、社会の構造により生み出される格差や社会的弱者の状況を目の当たりにし、大学でソーシャルワークを専攻。卒業後、JICA 青年海外協力隊員として西アフリカ・セネガル共和国教育省カオラック県教育委員会及びニオロ教育委員会に配属され、幼児教育・環境教育・教員養成などの活動を行う。2011 年より京都市環境保全活動推進協会にて京エコロジーセンターにおける環境教育プログラム開発、ボランティアマネジメント及び国際事業等に従事。好きな言葉は”Education is the most powerful weapon which you can use to change the world.”(Nelson Mandela)

同志社大学大学院総合政策科学研究科（博士前期課程）修了、修士（ソーシャル・イノベーション）。常磐会学園大学国際こども教育学部兼任講師、同志社大学人文科学研究所嘱託研究員。

社会福祉士、社会調査士、ボランティアコーディネーション力検定 1 級、准認定ファンドレイザー。著書等に『環境学習のラーニング・デザインーアクティブ・ラーニングで学ぶ持続可能な社会づくりー』（2019, 日本環境教育学会編, キーステージ 21 発行, 分担執筆）。

## ●深谷 梨乃（ふかや りの）

京都市環境保全活動推進協会  
企画広報室（環境教育推進室兼務） 職員



### ●対応できるテーマ例

オンラインイベントの企画と実施

幼少期にさまざまな博物館へ通った経験から博物館施設のスタッフを志し、大学時代には環境教育について学ぶため昆虫学研究室に所属。自然や生き物を通じた幼児情操教育について研究し、小学校での自然観察の出張授業等、教育に関わる活動を行う。2019 年から京都市環境保全活動推進協会にて、京エコロジーセンターにおけるイベント企画や環境学習プログラムの運営、広報等に従事。2020 年からはコロナ禍においても環境学習の場を提供する方法を検討、イベントのオンライン化を進める。京エコロジーセンターのイベント動画に出演中。東京農業大学農学部農学科卒。

学芸員、ビオトープ管理士（計画部門）2 級、ボランティアコーディネーション力検定 2 級。

## ●石田 浩基 (いしだ ひろき)

京都市環境保全活動推進協会

環境教育推進室 (地域環境活動促進室兼務) 職員



### ●対応できるテーマ例

環境教育の入門講座、環境まちづくり、地域連携パートナーシップ

三重県名張市生まれ。大学時代にフードバンクやレジ袋有料化など、環境問題やそれを解決するための仕組みについて興味を持ち、サークル活動で大学内のごみ問題に取り組む傍ら、専攻科目にて幅広く環境問題について学ぶ。2013年、一般財団法人地域公共人材開発機構に入職し、人材育成プログラムの運用や、研修・講座事業等に従事。2017年より京都文教大学地域協働研究教育センター専任研究員として、地域連携に関する研究活動や授業を担当する。2019年より現職。京エコロジーセンターにおける環境教育プログラム開発、展示事業を担当。

好きな言葉は『おもしろき こともなき世を おもしろく』。

龍谷大学政策学研究科修士 (政策学)、京都文教大学非常勤講師。

eco 検定 (環境社会検定)、地域公共政策士、ボランティアコーディネーション力検定 2 級。著書等に『実践! 防災と協働のまちづくり 住民・企業・行政・大学で地域をつなぐ (京都文教大学地域協働研究シリーズ)』(2021, ミネルヴァ書房, 第 3 章「都市型環境教育による循環型社会形成への期待」執筆)。

## ●竹花 由紀子 (たけはな ゆきこ)

京都市環境保全活動推進協会

企画広報室 (地域環境活動促進室兼務) 職員



### ●対応できるテーマ例

地域の環境活動、家庭部門の省エネルギー対策、省エネルギー住宅

長野県生まれ。立命館大学在学中より NPO 法人環境市民で環境教育の調査研究と実践に取組み、「京都エコ修学旅行」のコーディネーターを務める。

1999年、京都市のローカルアジェンダ 21 協働推進組織「京のアジェンダ 21 フォーラム」に、初の民間スタッフとして着任。京エコロジーセンターの開館前、環境ボランティア養成と常設展示企画に関わり、2002年の開館時に入職。ボランティア活動のコーディネーション、環境教育プログラムの企画実施、市民活動支援を担当。2007年に京都府地球温暖化防止活動推進センターへ移り、家庭部門の省エネ (特に給湯・空調・住宅) について調査研究や診断士育成を手掛ける。2019年からは (公財) 京都市環境保全活動推進協会にて、地域の環境活動支援に取り組んでいる。府立大阪女子大学大学院文学研究科修士課程修了 (文学修士)。

省エネルギー普及指導員、環境省家庭エコ診断制度 うちエコ診断士。著書等に「シニア世代のボランティア受け入れをどうするか」(『NPO ジャーナル Vol.15』2006, 関西国際交流団体協議会編, 明石書店)、『よくわかる環境教育』第 7 章第 3 節「エコツーリズム」分担執筆 (2013, 水山光春編著, ミネルヴァ書房) 他。

## ●重原 奈津子 (しげはら なつこ)

京都市環境保全活動推進協会

企画広報室 (地域環境活動促進室兼務) 職員



### ●対応できるテーマ例

生物多様性、生態系サービス、里山、自然観察 (植物メイン)

広島県出身。高校卒業後、静岡大学農学部へ進学する。在学中、中山間地域へと通い、援農活動を通して日本の農業の現状や農的な暮らしの奥深さを知る。卒業後、人間活動と自然共生について研究するため、京都大学大学院地球環境学舎へ進学。長崎県の対馬市で研究活動を開始する。古くから島全体を里山的に利用してきた対馬で、耕作放棄地問題や里山資源の利用、自然環境の変化など景観生態学の視点から研究を行い、2019年博士号を取得。また、対馬市の地域づくり計画の策定や、地域コンサルタントである一般社団法人 MIT の特別研究員として持続可能な島創りに関わる。2021年4月から現職に就き、現在は再生可能エネルギーの普及や環境に関係する事業を行っている。

博士 (地球環境学)。

著書等に「長崎県対馬市志多留地区における 1950 年代以降の土地被覆変化」(2019, ランドスケープ研究 82 (5) pp.623-626.)。

## ●広中 歩 (ひろなか あゆむ)

京都市環境保全活動推進協会

環境教育推進室 (地域環境活動促進室兼務) 職員



### ●対応できるテーマ例

環境教育、SDGs、海洋ごみ・海洋プラスチック、国外での環境教育事例、工作・ワークショップ など

三重県出身。幼少期よりボーイスカウト活動を通じ野外での活動経験を多く積む。学生時代は野生動物の保護管理について学び、2014年、富士山世界遺産センター (山梨県世界遺産富士山課) にて、富士箱根伊豆国立公園 (富士山地域) の利用改善及び管理・運用に従事。2017年、JICA 海外協力隊の隊員として中央アジアのキルギス共和国教育科学省に配属、環境教育、環境教育の教員育成に従事。現地にて環境教育の認定資格を整備、キルギス共和国日本語教師会に所属。2019年、現職。京エコロジーセンターにて環境教育プログラムの開発、展示事業を担当。2020年、香川県の小豆島を拠点に、海洋ごみ問題にアプローチする NPO 法人を立上げ、現在も組織運用に携わる。

特定非営利活動法人 CleanOceanEnsemble 理事。

プロジェクト WET エducレーター、PLT ファシリテーター、SDGs ボードゲーム認定ファシリテーター。

著書等に『Зелёная книга для экологического образования ~環境教育のための緑の本~ (露語)』(2019, РДЮЦЕК Т (地域の歴史・観光・青少年のための活動センター), 編著)。

ここで紹介している職員以外にも講師として派遣することができる場合があります。

テーマや内容等、お気軽にお問い合わせください。

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

Tel : 075-641-0911 お問い合わせフォーム :

